

# 権の案

平戸市立中野小学校

令和 3年 6月16日

校長 中野 孝之 第6号

～ 行きたい学校 帰りたい家庭 住みたい地域 ～



梅雨入りはしたものの、晴れたり、雨が降ったりと、気温や湿度の変化に体調を崩している児童も見受けられます。このような時期でも学校では宿泊学習、水泳教室、社会科見学や町探検と行事は続きます。しっかりと休養と睡眠時間をとって取り組んでほしいものですね。

## 田植え：5・6年生

苗床づくりから約2週間、15cmくらいに育った稲を学習用にお借りしている田に植える作業をしました。昨年度実施できなかったため、初めて経験する子もいて、田んぼに入り、動くことから苦戦していました。

老人会の方のご協力を得て、何とか時間内に植え終わることができました。応援に駆けつけてくださいました保護者の方もいて大変助かりました。ありがとうございました。



## 授業参観・懇談会

11日（金）の授業参観には、お忙しい中、たくさんのご参観ありがとうございました。各学年の子どもたちの学習の様子は、いかがだったでしょうか？どの学年の子どもたちも保護者の方がたくさん見に来られているということで、いつも以上に張り切っているように感じました。



# 第16回平戸市「少年の主張」大会

13日（日）に文化センターにおいて平戸市「少年の主張」大会が行われ、各小中学校の代表23名が、それぞれのテーマで発表しました。本校からは☆年の〇〇〇〇さんが出場し、見事最優秀賞をいただきました。以下がその内容です。ご紹介します。

発表テーマ 「SDGsと平戸の未来」 〇〇〇〇

みなさんは「SDGs」という言葉を耳にしたことがありますか。僕は社会科の資料集を見ていてこの言葉を初めて知りました。そしてもっと詳しく知りたくなり調べました。「SDGs」とは、2016年から2030年の間に、「だれ一人取り残さない世界」を目指し、持続可能な社会を実現するため、世界の国々が努力すべきだとされる17の目標のことです。

最初にこれらの目標を見たときは、国や大企業が努力すればいいことだと思っていました。しかし、一つ一つを見ていくと、自分の身のまわりに当てはまる項目もあり、僕にも何かできることはないかと考えてみることにしました。

例えば、「飢餓をゼロに」の項目では、食べ残しをしないで食品ロスを減らす。「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」では、太陽光パネルを設置して、日々使う電力を自給する。「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」では、海や森を汚さないように心がけるといったことが考えられます。

そうやって考えていくうちに、ある一つの目標が気になりました。それは、11番目に示されている「住み続けられるまちづくりを」です。最初はまったく意味が分かりませんでした。「住み続けられるまちってどういうこと？」「自分が住んでいるところも住めなくなるってこと？」僕は、生まれてからずっと平戸で過ごしてきました。平戸は自然が美しくとてもきれいな街だと思います。そんな平戸が住み続けられないってことがありえるのでしょうか。

平戸の課題について調べてみると、その可能性がありそうです。過疎化、少子高齢化、医療問題、災害などの課題があることがわかりました。今僕が通っている中野小学校でも児童数が減り続けて、僕の学級は複式学級になっています。車で買い物に行っているときも高齢者マークの車をよく見ます。聞いた話によると、交通手段がなく買い物難民が増えてきているそうです。さらに大きな病院が少ないために、重い病気やひどいけがの時に先進医療が受けられません。中でも深刻だと思うことが、都市部への人口の流出による過疎化です。人口が減れば、税金も減り、福祉や公共サービスに使えるお金が減ってくると社会科で学習しました。過疎化が様々な課題のもとになっているのだと僕は思います。

このままでは僕の育ってきた平戸が「住み続けられるまち」でなくなってしまう。それは絶対に嫌なので解決案を考えました。

僕が深刻だと考える過疎化の対策としては、人が働く場所をもっと作ることが大事だと思います。たとえば、豊かな自然を生かした農業や水産業など今あるものをよりよいものにしていくのはどうでしょう。平戸の魚やお肉、野菜はとてもおいしいです。これらの農水産物にブランドをつけてインターネットなどを利用して海外も視野に入れてアピールするのもいいかもしれません。そして、この産業を拡大して、雇用を増やしていくのです。また、このブランド農水産物を観光事業にも取り入れて、平戸のホテルや平戸城での宿泊者に提供し食べてもらうことでリピート客を増やせるのではないのでしょうか。このブランドを売り込んでいくためには観光についても力を入れる必要があります。古くから西洋の窓口として栄えた平戸は、歴史的遺産が多くあります。それを生かして、オランダ商館や史跡などを「VR」を使って昔の風景をリアルに再現し時代旅行をできるようなアトラクションをつくってはどうか。平戸城もリニューアルされて今平戸は注目されています。そこに力を入れることで、「平戸は食事もおいしいし、歴史の旅もできる」ともっと平戸に関心をもつのではないのでしょうか。ここにも雇用を生み出すヒントとなるものがあると思います。

課題と解決策をいくつか挙げてきましたが、平戸はもともと治安がよく、自然豊かで快適な生活環境で安心して暮らせる街です。さらに人々も親切で住みやすい街だと思います。このような素晴らしい平戸を残していくためにも、今日話題にした「SDGs」という言葉を平戸のみなさんに知ってもらい、「住み続けられるまち」となるように考え続けてほしいです。そして、古いことにとらわれず、新しいことにチャレンジしていくことが大切だと思います。一人一人が課題意識をもち、声をあげていくことが平戸の未来をかえていけるのではないのでしょうか。

